

社会科（公民的分野）学習指導案

指導学級 3年A組
指導者 教諭 山下周也
指導場所 3年A組教室

1 単元名 現代の民主政治

2 単元の考察

本単元は、学習指導要領の公民的分野内容の（3）「私たちの政治」のイ「民主政治と政治参加」に含まれる内容である。

ここでは、地方自治の基本的な考え方について理解させる。その際、地方公共団体の政治の仕組みについて理解させるとともに、住民の義務や権利に関連させて、地方自治の発展に寄与しようとする住民としての自治意識の基礎を育てる。また、国会を中心とする我が国の民主政治の仕組みのあらましや政党の役割を理解させ、議会制民主主義の意義について考えさせるとともに、多数決の原理とその運用の在り方について理解を深めさせる。さらに、国民の権利を守り、社会の秩序を維持するために、法に基づく公正な裁判の保障があることについて理解させるとともに、民主政治の推進と、公正な世論の形成や国民の政治参加との関連について考えさせる。その際、選挙の意義についても考えさせるとしている。

現代の民主政治は、選挙をはじめとする国民の政治参加によって支えられている。特に日本の場合、代表者を選挙で選び、選ばれた代表者が会議で話し合って決めるという議会制民主主義をとっている。しかし、これまでの選挙の状況を振り返ってみると、国民の“政治離れ”が進み、総選挙における20代後半の投票率は38.6%（第46回衆議院議員総選挙）にまで低下している。さらに今年7月に行われた参議院選挙では選挙区選、比例選ともに52.61%と戦後3番目の低さを記録した（総務省発表）特に危惧しなくてはならないのは“選挙で投票しても何も変わらない”という、無気力感である。こうした状況を踏まえ、参政権という私たちが持つ権利と選挙によって民主政治が成立していることをしっかりと理解させることが重要であると考え。将来の主権者を育てるうえで、本単元は重要な意義をもつと同時に、民主主義に関する理解を深めるとともに、国民主権を担う公民として必要な基礎的教養を培うということにも繋がるものである。

3 生徒について

①社会的事象への関心・意欲・態度

公民的分野の学習を進めてなかで、現代社会や人権に関する授業では個人差はあるものの、全体的に学習に対する取り組みは高い。男子は授業でも進んで発表するなど意欲的な生徒も見られる反面、女子は発表などには消極的である。

②社会的な思考・判断・表現

現代史の学習の中で、グラフや表の変化を読み取り、憲法の学習では様々な法律の条文の意識し理解する場面を設定した。学習当初、苦手だった生徒も人権学習では、自分の意見や考えをまとめたりすることができるようになった。

③資料活用の技術

授業を進めていくなかで、問答形態の場面を多く取り入れた。テーマとして“消費税は上げるべきか”“人間に値する権利とは何か”など、思考と発表を織り交ぜながら多くの場面をつくることで自分の意見を主張できるようになった生徒が少しずつ増えてきた。

④社会的事象についての知識・理解

振り返りを含めて、簡単な単元テストを行ったが、全体的にその定着は図られていなかった。しかし、定期考査では基本的な問題は確実に解けた生徒が多く、平均点も6割を超えた。これは普段の家庭学習が定着していない反面、定期考査にはしっかりと準備して取り組んだ成果の現れのように思われる。

⑤課題意識について

夏期休業明け「授業に臨む際の課題意識」についてアンケートを実施した。項目と結果については以下の通りである。生徒の中では課題意識をもって授業に取り組むと「とても意欲的になる」あるいは「意欲的になる」と答えた生徒はそれぞれ11%、80%で合わせると9割を達した。同様に課題意識を持って授業に臨むと「よく理解できる」「理解できる」と答えた生徒はそれぞれ8%、82%で合わせるとこちらも9割に達した。また、生徒たち自身は授業に課題意識を持って取り組むことはほとんどの生徒が「とてもよい」「よい」ことであると考えている。(93%)しかし、実際は授業に何らかの課題意識を持って臨んでいる生徒は7割に達していない。(68%)つまり、授業に向けて課題意識をもって臨むことは、意欲や理解力において向上すると思いつつも、実

際はただ漠然と授業に臨んでいる生徒が約3割いて、話し合い活動などを通して学習を進めることを苦手とする生徒が多いことも分かる。

授業に臨む際の課題意識に関するアンケート（対象 男子20名 女子15名 計35名）

(1) あなたは毎回の授業に課題意識や疑問などをもって臨みますか。

	男子 20名	女子 15名	計 35名
A ほぼ毎回もっている	0	0	0 (0%)
B だいたいもっている	14	10	24 (68%)
C あまりもたない	5	5	10 (35%)
D もたない	1	0	1 (2%)

(2) 課題意識や疑問を持って臨むと、授業に集中するなど意欲を持って学習に取り組むことができますか。

	男子 20名	女子 15名	計 35名
A とても意欲的になる	2	2	4 (11%)
B 意欲的になる	16	12	28 (80%)
C あまり意欲的にならない	2	1	3 (9%)
D 意欲はない	0	0	0 (0%)

(3) 課題意識を持って授業に臨むと、授業はよく理解できますか。

	男子 20名	女子 15名	計 35名
A とてもよく理解できる	2	1	3 (9%)
B 理解できる	16	13	29 (82%)
C あまり理解できない	2	1	3 (9%)
D 理解できない	0	0	0 (0%)

(4) 授業の際、課題意識や疑問を持って臨んだ方がよいと思いますか。

	男子 20名	女子 15名	計 35名
A とてもよいと思う	6	7	13 (37%)
B よいと思う	13	7	20 (57%)
C あまり思わない	1	1	2 (6%)
D 思わない	0	0	0 (0%)

(5) あなたは発表活動（話し合い活動やディベートなど）に取り組んでみたいと思いますか。

	男子 20名	女子 15名	計 35名
A とても取り組んでみたい	2	3	5 (14%)
B 取り組んでみたい	11	7	18 (51%)
C あまりやりたくない	7	4	11 (31%)
D やりたくない	0	1	1 (3%)

4 指導について

生徒の実態に応じて、本単元において以下の点に重点を置き指導していきたいと考えている。

①単元の内容とメディアの活用

この単元では、民主主義の基本的な考え方や仕組みを学習する単元である。7月には本単元の学習内容に関わる選挙が行われた。選挙の動向などが新聞や雑誌、インターネット、ニュースなどで大きく取り上げられてきた。これに関心を持って見ていた生徒も少なくない。政治が身近なものとしてとらえられるように、こうした報道内容を生かした具体的な事例を挙げたり、生徒の興味関心を高める資料等を活用したりして理解を深めさせたい。

②意欲・関心の向上と課題意識を持たせる課題の工夫

生徒の実態では、課題意識をもって授業へ臨めば、授業への意識が高まったり、授業内容の理解が深まると考えているにも関わらず、実際に授業へ向けて何らかの課題意識を持って取り組んでいるのは7割にとどまった。そこで事前に課題意識を持たせるような指導を工夫したい。

③単元の評価

指導と評価の一体化を図るため、評価方法を示した指導計画の工夫を図り、実践していきたい。各授業のねらいに沿った適切な評価をペーパーテストだけに頼るような画一的な方法にならないように工夫していきたい。

5 本校の研究主題との関連について

平成25年度 本校研究主題について
「学びを大切にする生徒の育成」
本校社会科部会研究主題
「自ら課題を見つけ、主体的に課題を追求する生徒の育成」

社会科では重点目標事項を上記のように設定し、日々取り組んでいる。この努力事項を目標とし、達成していくために本単元では、以下の点に重点をおいて指導していきたいと考える。

①自ら課題を見つけるために

まず、学ぶ必要を感じることでできる単元（題材）の構成に努めることである。ただ漠然と課題は何かと問うても生徒自身が課題を課題として認識していなければ無益である。そこで、授業では導入で生徒の興味を引きつけ、学習テーマを明示し、単元学習に対して見通しを持たせるとともに身につけるべき学習内容を事前にアナウンスしたいと考える。これらを踏まえ、政治に関する内容の学習においては制度についての単なる理解に終わるのではなく、“なぜ現在このような制度やしくみが設けられているのか”など、その制度を成り立たせている基本的な考え方をしっかりと理解させていきたい。また、“多数決の原理”では多数の意見のみを取り上げるのではなく、少数意見の尊重も大切であるといった点や“選挙”の学習では、その制度によって当選者も大きく変わってくることなどに着目しながら、社会的事象を多面的・多角的な視点から公正に判断させたい。

②主体的に課題を追求するために

単元の学習を通して、学習形態の工夫や学習課題や資料の掲示の工夫を図りながら、生徒の考えや意見の形成を支援し、そうして生じた生徒の意見を生かしていけるような授業展開の工夫を図りたい。

6 指導目標

①身の回りの事象と政治とのかかわりに関心をもたせ、自主的な学習を重視する中で、国や地方公共団体における実際の政治について意欲的に学習させる。（関心・意欲・態度）

②選挙制度や政党や世論など政治参加の仕組みと望ましい在り方について、多面的・多角的に考察させ、公正に判断させる。（思考・判断・表現）

③人々の政治への願いや国や地方公共団体の政治の仕組みについて、課題にふさわしい資料等を収集、選択させ学習に活用させる。（技能）

④政治は法に基づいて社会生活上の対立や争いを調整・解消し、自由と権利を保障するために行われていることを理解させる。（知識・理解）

7 評価規準

社会的事象への関心 意欲・態度	・新聞やニュースなどを通して身近な生活と政治とのかかわりに関心を持ち、身の回りの社会的事象から政治に関する課題を自ら見つけ意欲的に学習に取り組んでいる。
社会的な思考・判断 表現	・様々な政治参加の制度や仕組みについて、その特色や背景を多面的・多角的に考察している。選挙をはじめとする国民の積極的な政治参加が民主政治を支えていることに気づくとともに、公正な選挙の重要性について考察している。
資料活用の技能	・資料などを活用しながら、人々が政治にどのような願いをもっているのか、あるいは現在の政治にどんな特色や問題があるのか調べることができる。国や地方公共団体の政治の仕組みに関する資料を収集し、課題学習に活用している。
社会的事象についての 知識・理解	・政治は、法に基づいて社会生活上の対立や争いを調整・解消し、国民生活の向上を目指して行われることを理解している。政党や世論の役割、多数決の原理と運用の在り方について理解し、その知識を身につけている。

8 指導計画

時	学習内容	学習目標	評価規準
1	市長になって考えてみよう	・架空の市の市長の立場から企業跡地の活用について考える学習活動を通して、政治への興味・関心をもつ。	政治に対して関心を持ち、学習活動に意欲的に取り組んでいる。 (興味・関心・態度)
2	民主主義と政治	・政治の目的は、人々の願いを実現し、よりよい社会をつくることであることを理解する。 ・民主主義とは何か、なぜ議会制民主主義が採用されているのかについて、独裁や専制との比較を通じて理解する。	民主主義の考えを歴史的な経緯を踏えて効率と公正の視点から考え、適切に表現している。 (思考・判断・表現) 多数決の原理と少数意見の尊重が重要であることを理解している。 (知識・理解)
3	政党と政治	・政党が国民と議会を結びつけており、国民生活において欠ことのできない存在であることを理解する。	現在の日本の政党政治の動向や課題に対する関心を高めている。 (関心・意欲・態度)
4	選挙のしくみと課題 ①	・選挙は国民が政治に参加する重要な機会であることを理解し、作業的な学習を通して選挙制度のあらましを掴む。 ・選挙の課題について、具体的な事例から、よりよい選挙の在り方や選挙に参加することの重要性に気づく。	選挙における課題について、有権者や立候補者、選挙制度など様々な視点から考察し、その過程や結果を適切に表現している (思考・判断・表現) 選挙の意義と日本の選挙制度のあらましについて理解している。 (知識・理解)
5 本 時	選挙のしくみと課題 ② ～清き一票をどの党に～	・各政党のマニフェストに関心をもって読み込み、進んで学習に取り組むことができる。 ・資料を参考にしながら、どの政党に投票したらよいか根拠を示しながら投票することができる。	公民として政治に関心を高めながら進んで学習に取り組めたか。 (興味・関心・態度) 自分が支持する政党に根拠をもって投票できたか。(思考・判断・表現)

9 本時の指導

①本時の題材名 「～清き一票をどの党に～」

②本時の目標

(1) 各政党のマニフェストに関心をもって読み込み、進んで学習に取り組むことができる。

(関心・意欲・態度)

(2) 資料を参考にしながら、どの政党に投票したらよいか根拠を示しながら投票することができる。

(思考・判断・表現)

③指導の工夫

生徒の意欲関心を高めるために、2013年の選挙で出された各政党のマニフェストを活用し、生徒にどの政党の公約を支持するかを考えさせる。また、マニフェストも生徒が分かりやすいように教材化した。ただし、選挙結果が出ていること、また今年の選挙で再度、ひっくり返ったこと等を踏まえ、政党名は具体的には明かさず、アルファベットで示す。

次に授業形態にグループ活動を取り入れ、自分とは異なる意見を聞き認めながら多角的に考えを深め、さらに再考する場面を設け、じっくりと考えることができるよう工夫したい。実際に模擬投票を行うことで、選挙に対する関心を深めさせ、公民としての資質の向上を目指す。選挙方法は、衆議院議員選挙の選挙方法の一つである小選挙区制を取り入れた。(比例代表については前回の授業で学習してはいるが、ドント方式については時間的・理解度的に避ける)

- ④ 準備する物 教師：教科書、学習プリント、タブレット端末、大型テレビ、投票箱
 生徒：教科書、ノート、筆記用具

⑤ 指導過程（展開）下記

⑥ 評価

- (1) 各政党のマニフェストに関心をもって読み込み、進んで学習に取り組むことができたか。
 (興味・関心・態度) ゆ
- (2) 資料を参考にしながら、どの政党に投票したらよいか根拠を示しながら投票することができたか。
 (思考・判断・表現)

指導過程（展開）

段階	学習活動	指導の工夫及び留意点	評価
導入 (5～8分)	<ul style="list-style-type: none"> ○前時の学習について触れる。 ○本時の内容をアナウンスする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレット端末を用いて、大型テレビで選挙の街頭演説や投票所の様子などを動画で紹介し、関心を引きつける。 	
展開 (32～40分)	<ul style="list-style-type: none"> ○本時の学習課題をつかむ <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>～清き一票をどの政党に～ 資料を活用して、自分の投票する政党に根拠を示して投票しよう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ○各政党のマニフェストを熟読し、その内容をよく把握する。 ○プリント2の①②③を記入する。 ○自分の選択した政党と違う政党を選んだ理由を聞き、質疑応答をすることで見解を広げる。 ○プリント2の④⑤を記入し、再度、自分の支持する政党を決定し、投票する。(模擬投票) 	<ul style="list-style-type: none"> ・分かりやすいように各政党のマニフェストをまとめたプリント1を配布する。 ・プリント2を配布し、記入の仕方などを説明する。 ・話し合いがしやすいよう、以前に配布した話し合いの手順を示したプリントを参考に組み立てる。 ・支持した観点と根拠を明らかにして発言できるよう伝える。 ・他の意見を参考に、再度自分が支持する政党を決定するよう促す。 ・決定した生徒から投票させ、最も得票数が多かった政党を当選とする。 	<p>関心をもって資料を読み込むことができたか。</p> <p>評価(1)</p> <p>根拠を示して支持する政党に投票することができたか。</p> <p>評価(2)</p>
	まとめ (5～8分)		<ul style="list-style-type: none"> ・評価カードをもとに今日の学習を振り返らせまとめさせる。 ・数名の生徒に感想を発表させる。